

カヌー乗船体験会及び進水式

春から12回にわたって桜井市民と一緒に作り上げてきた木製カヌーですが、何とか完成し「森から海へ」の一步を華々しく踏み出しました。当日は60人以上の市民がその瞬間を見届けるために集まってこられました。



9月10日。残暑とはいえ風が心地よい快晴の下、大和さくらい万葉まつりが桜井市金屋河川敷特設会場にて開催されました。1万8000人も参加者でにぎわうこのイベントで大々的に進水式をさせて頂けたのはとても光栄なことで、おかげでマスコミ各社にも建築士会の取り組みを大きくアピールできました。祭りの中でも大きなコンテンツの一つとして取り上げていただきましたので、今回この事業をご存じなかった市民の方からも「是非次回は参加したい。」「キットは販売しているのか？」などと問い合わせが飛び交う中、併設した木パズル体験ブースとあわせて大変な盛況でスタッフも一日中（片付けも含めると夜中まで）大忙しでした。



カヌーは1年かけて1台をつくりました。型枠通りに細い板を曲げて船体を作る作業、隙間を埋める作業、磨き上

げてFRPでコーティングする作業など、倉庫の中で暑くても一生懸命頑張った作品なので、できあがっていざ水面に浮かべるときは参加者もスタッフも緊張の面持ちでした。一緒に作った子どもたちにとっても待ちに待った瞬間だったと思います。固唾を呑んで無事進水に至った瞬間、会場は拍手喝采に包まれました。

このカヌーは吉野材の端材（間伐材）からほとんどの部分が作られています。私たちは建築士会として地元産材をどんどん使ってもらおうというPRの他に、間伐材を有効に利用することで、森林資源の健全化につなげ同時にサステナブルな未来に向けた地域社会への取り組みとして発信を続けてまいりました。木製パズル体験も同様ですが特に子どもたちは木と触れあう機会が減っているのではないかと思います。木材に触れてその感覚を楽しんでみたり、匂いを嗅いでみたり、挽き粉の中に手を突っ込んで笑顔で何か感じるんでしょうね。自然の息吹と奈良の文化、そして何より木材の暖かみを感じてもらえたならこれらの事業に大きな意味があったと思います。

さて、話は戻りますが乗船体験会はスタッフが別にしたものと合わせて二隻で行いました。50mほどの区間を往復し、約3分ほどの乗船でしたが参加者（製作に関わった子どもたち）は満足と不安が入り交じった表情でした。途中で座席部分が破損するトラブルにも見舞われましたが刺激的で貴重な体験を皆さんと共有できたと思います。舵取りが意外と難しく、その部分は青年委員会メンバーが担当しました。



乗船体験会に先だって行われた命名式では今回のプレゼンターでもある桜井市マスコットひみこちゃんにちなんで「卑弥呼ちゃん」と名付けられました。卑弥呼のように長く愛される青年委員会事業でありたいと思います。

（記・高田支部 吉田泰造）